

## 第2回奈良県中小企業会館等活用検討委員会の議事概要

- 1 日 時：令和4年5月27日（金） 10時～11時30分
- 2 場 所：アクティ奈良6階会議室
- 3 出席者：（委員）北口委員、下山委員（委員長職務代理）、福井委員、二神委員  
（中山委員長は欠席）  
（事務局）産業・観光・雇用振興部 谷垣部長、今仲次長、通山次長  
企業立地推進課 大内課長 他
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 議事

(1) 開会の挨拶 谷垣部長

(2) 奈良県中小企業会館等の活用検討について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 意見交換

<委員からの主な発言は、次のとおり>

- ・奈良県の観光消費額が低いのは、自然観光等、入場料・入館料を払わなくても楽しめる環境があるからではないか。
- ・奈良県は、宿泊施設の客室数が少ない。客室数を増やすことで観光消費額は上がる。
- ・一番の課題は、「周遊・滞在型観光の促進」であり、観光消費額を上げることが目指すべきところである。
- ・周遊・滞在型観光を目指すのであれば、平城京や西ノ京、法隆寺等の観光ルートの計画があってもいいのではないか。今はそれぞれが点になっている気がする。
- ・いろいろな観光資源はあるが、もっとPRしなくてはいけないのではないか。
- ・リピーターも多く、何回も来る価値のある場所だと思う。

- ・観光客だけでなく、近隣居住者、周辺の社寺関連等も含めて「みんなが共に居る」ことができる空間であってほしい。
- ・ハード面においては、ホテルを増やすことが一番必要であり、一方で、楽しくわくわくするような施設を増やすことも必要。
- ・歴史を感じられる場所であり、歴史や自然と共存できるようなホテルがよい。
- ・「本物」があり、歴史もあり、環境も素晴らしい奈良の良さを体感してもらうためには、ラグジュアリーなホテルの誘致が必要。
- ・コンベンションセンターで国際会議等があっても、宿泊できる高級ホテルが少ないため、ビジネスでも泊まれるようなホテルもよい。
- ・高級なホテルが望ましいが、該当の敷地で建てるとなった場合、敷地面積や立地諸条件等から単に高級なホテルというだけではイメージが湧きにくい。奈良公園に溶け込むような高級ホテルはイメージできる。
- ・どこにでもあるようなホテルではなく、奈良の文化財や周囲にある様々な文化施設や人材と連携することで、付加価値を高め知的好奇心に応えるような高級ホテルはどうだろう。
- ・そのような高級なホテルの事例を集めて欲しい。
- ・奈良の強みというのは、本物の日本らしさ、奈良らしさ、歴史が味わえることであり、日本の原点を感じられること。
- ・「ただ高級ホテルを建てればよい」というだけでなく、諮問にあった「奈良公園の玄関口として相応しい」、「奈良の強みを活かした」とは何かということを整理した上で答申をまとめる必要がある。
- ・「奈良公園の玄関口に相応しい」というイメージは、古都奈良のままが感じられる、奈良公園と調和するようなホテルが想像される。
- ・「奈良公園の玄関口に相応しい」という部分からフォーカスして、「このようなホテルであるべき」ということを示すべきではないか。この施設単体で考えるものではない。

## 次回

宿泊を伴う周遊・滞在型観光を促進するため、上質なホテルが望ましいという方向性が示されたことから、「上質なホテル」、「奈良公園の玄関口に相応しい」の内容について、他府県の事例を踏まえて検討を行う。